



AI 時代を生きる、わたしたちの学び

校長 井上 美保

現代社会は、日々目まぐるしく変化しています。新聞やニュースでは、「生成 AI」「オンライン」「SNS」などの言葉が飛び交い、新しい授業や創造的な教育活動のヒントが紹介されています。数年前のコロナ禍をきっかけに、時代は急激に変化しました。

このような時代にあって、生徒の皆さんに身につけてほしいのは、「ICT 機器を正しく使い、効果的に活用する力」です。ICT 機器の進化により、私たちの生活は大きく変わりました。スマートフォンやタブレット、パソコンなどを正しく使うことは、学校生活だけでなく、卒業後の社会生活をより便利で豊かにしてくれます。

さらに、AI（人工知能）が文章を生成したり、画像を作成したり、データを分析したりと、私たちの生活に深く関わる時代になりました。これまで時間をかけて行っていた作業が、驚くほど簡単にできるようになった一方で、情報の扱い方には注意が必要です。便利さの裏には、危険も潜んでいます。

今、皆さんにできることは、情報には「光（便利さ）と影（落とし穴）」があることを理解し、正しい知識と判断力をもって活用することです。

オンライン授業や自宅でのオンライン学習にも、少しずつ慣れてきたように思います。「できなかったことができるようになる」ことは、自分がレベルアップしているということになります。どんな状況におかれても学びを止めない前向きな姿勢は、社会に出た時に必ず自分を支えてくれるはずです。

3年間の学校生活では、ICT 機器を活用する力や、それに関するスキルを学ぶ機会がたくさんあります。先生たちも、皆さんが時代に合わせて自分自身をアップデートできるよう、さまざまな方法で学びの場をつくっていきます。

皆さんも、正しい知識を身につけ、自分の可能性を広げていってください。



ICT 機器の活用

主幹教諭 田島 麗子

10月16日(木)と17日(金)に、今年度のオンライン学習デーを実施しました。生徒は一人一台端末(iPad)を使って自宅から授業に参加。教員も、端末を使って課題の配信や説明、質問への対応などを行いました。端末上の設定や課題提出の方法など、オンラインならではのルールを守って、生徒たちは落ち着いて授業に参加していました。



英語のオンライン授業配信の様子。「Find something cute and soft.」の説明を受け、生徒各々が身の回りにある「可愛くて柔らかいもの」を探し、カメラに映して教員とやりとりしている。

オンライン学習デーの取り組みは、災害時などにも学びを止めないための準備・予行演習であると同時に、ICT 機器を、自身の学習のためのツールとして使いこなす練習でもあります。普段の学校生活でも、iPad の入力機能をちょっとしたメモとして使ったり、全校集会での連絡事項のための原稿を作成するのに使ったりしている生徒の姿を見かけます。その他、二次元コードから情報を読み取ったり、調べたいことをウェブ検索したりと、活用の場面は幅広く、そして、どの生徒もごく自然に活用できているように思います。

機器の操作技術の熟達に意欲的な生徒も多く、7月に実施した日本情報処理検定協会主催の「日本語ワープロ検定試験」と「文章入力スピード認定試験」では、60名を超える生徒が受検し、多数の生徒が合格しました。その他、情報の授業では、プログラミングによるロボットの走行や、3D プリンタによる立体物の試作など、最近の技術に生徒が触れる機会も作っています。

ICT 機器の活用のためには、操作方法の習得だけではなく、情報発信の注意点、情報モラル、リスクを知った上での適切な活用などの学習も非常に重要です。こうした内容は、主に情報の授業の中で学習しています。また、情報モラルや他者との適切な関わりという観点において、SNS の適切な利用についての生徒向け講座を、先日、生活指導部主導で、一般財団法人 LINE みらい財団の方を講師として招聘し、実施しました。

※令和6・7年度の情報活用能力育成研究指定校としての実践が
掲載されています。ぜひご覧ください。 →

